

【2026年4・5月】ポプラ社一般書単行本刊行予定

※配本日・タイトル・予価等は変更の可能性があります。あらかじめ御了承ください。

5月

ジャンル	配本日	ISBN	書名	著者	予価	判型	頁数	著者紹介	内容紹介
文芸	5月18日	189870	雨が降ったら	寺地 はるな	1,800	四六判並製	224	1977年、佐賀県生まれ。大阪府在住。2014年、『ピオレタ』で第4回ポプラ社小説新人賞を受賞し、翌年デビュー。20年、咲くやこの花賞（文芸その他部門）を、21年、『水を縫う』で第9回河合隼雄物語賞を、24年、『ほたるいしマジカルランド』で第12回大阪ほんま本大賞を受賞。他の著書に、映画化された『架空の犬と嘘をつく猫』のほか、『ミナトホテルの裏庭には』『月のぶどう』『今日のハチミツ、あしたの私』『大人は泣かないと思っていた』『川のほとりに立つ者は』『わたしたちに翼はいらない』『こまどりたちが歌うなら』『いつか月夜』『リボンちゃん』『世界はきみが思うより』など多数。本書は、第33回山本周五郎賞にノミネートされた。	夫の浮気で離婚し、古いアパートで独り暮らしをする初佳、48歳。子ども達は独立し、収入は決して高くない。将来に不安がないわけではないが、自分が選んだものだけに困まれた生活は思いのほか幸福だ。ある日雨に降られて入った『わかば洋傘店』で、70代すぎと思しきバンクな恰好の女性店主に「雨が降ったら傘をさせ」という言葉と店名が大きく入った傘を貸してもらい。「これから先」の人生が楽しみになる著者の最高傑作！

4月

ジャンル	配本日	ISBN	書名	著者	予価	判型	頁数	著者紹介	内容紹介
企画	4月1日	189641	1分小説	浜口 倫太郎	1,400	四六判並製	188	1979年、奈良県生まれ・在住。漫才作家、放送作家を経て、2010年『アゲイン』（のち、『もういっぺん。』に改題して文庫化）で、第5回ポプラ社小説大賞特別賞を受賞し、翌年小説家デビュー。著作に、ベストセラーとなった『22年目の告白-私が殺人犯です-』のほか、『宇宙（そら）にいちばん近い人』『お父さんはユーチューバー』『ワラグル』『天空遊園地まほろば』など多数。漫画原作者としても活躍の幅を広げている。	ある日、とつぜんテレビやスマートフォンが「夜の管理者」を名乗る集団にジャックされた。「お前たち地球人の思い上がりは目にあまる。見せしめとして、三十日後に月を消す」回避する方法は、毎日デバイスに送られてくる「1分小説」に潜んだヒントを読み解いて、彼らの「真実の名」を言い当てること——。1分で読める小説を30作収録し、予想外の展開が待ち受ける粋物語をつけて構成した、手軽に読めて面白い新感覚の小説集。
企画	4月13日	189566	わたしのなかにある巨大な星	伊藤 紺	1,700	四六判並製	未定	歌人。1993年東京都生まれ。著書に歌集『気がする朝』（ナナロク社）、『肌に流れる透明な気持ち』、『満ちる腕』（ともに短歌研究社）。俳優・上白石萌歌の写真展『なぜとわたしはうつろう』への短歌提供など活躍の場を広げる。既刊はすべて重版。本作が初エッセイ。	話題を呼んだ短期連載6本に、書き下ろしエッセイ20本を加え書籍化。「歌の完成」「短歌をはじめた日」「エッセイがむずかしい」「言葉の箱」「書けない時期」「みんなはあなたじゃないんです」など、社会となじめなかった自身の性格や経験をまじえつつ、「創作」について真摯に綴ったエッセイ集。デザインは脇田あずか。本文中にも掲載するイラストはDaisuke Kondo。
企画	3月30日	189269	シーラカンスに会いに行く	著：高野真吾 監修：沼津港深海水族館、鈴木直樹	未定	四六判並製	240	1976年生まれ。埼玉県川越市出身。ジャーナリスト、元全国紙記者。早稲田大学政治経済学部在学中に早稲田大学水中クラブに入り、4年間で約200本のダイビングをこなす。同時に水中写真にはまり、コンクールに応募した経験も。同大卒業後の1998年に報道機関に入社。社会、経済、国際ニュースに幅広く携わりながら、次第にネットニュースにも活動の幅を広げる。単著『カジノ列島ニッポン』（集英社新書、2024年9月）、共著『12階から飛び降りて1度死んだ私が伝えたいこと』（光文社新書、2019年4月）。	進化しないことが、長く生きる条件だった!? マッチョなわりに、けっして早くは泳げない。鎧のような硬いウロコ、陸上生物の手足を思わせる頑丈なヒレ、だがけっして早くは泳げない……。3億5000年前の太古から、姿を変えずに絶滅を乗り越えてきた希少深海魚シーラカンス。「生きた化石」を追い求めた人びとの熱狂と、知られざる生態の謎に迫る。
文芸	4月20日	189658	ミント邸で夜の茶会を	斎藤 千輪	1,800	四六判並製	188	東京都町田市出身。映像制作会社を経て、放送作家・ライターとして活動。2017年、第2回角川文庫キャラクター小説大賞・優秀賞を受賞した『窓がない部屋のミス・マーシュ 古いユニットで謎解きを』でデビュー。著書に、第2回双葉文庫ルーキー大賞を受賞した『だから僕は君をさらう』のほか、「ピストロ三軒亭」「神楽坂つきみ茶屋」「グルメ警部の美食捜査」の各シリーズ、『出張シェフはお見通し 九条都子の謎解きレンビ』『魔城の林檎』『憧れの貴婦人レンビ』など多数。	海街の高台に佇む瀟灑な洋館、通称ミント邸。ここでは週末の夜だけイブニングティーのサロンが開かれる。看板メニューはおいしい紅茶と瀬戸内の食材をふんだんに用いたスイーツ。マダムの琴葉は趣味の紅茶占いでお客様の悩みにヒントをくれる——と思いきや、実際に謎を解くのは、義理の息子で極上のスイーツをつくるパティシエの牡馬だ。様々な悩みを解きほぐすふたりだが、実はこのサロンを開いているのには理由があって…。